

11月に入ってもまだ暑い日が続きますね。一方、海水温は下がってきていますので長かった雨期もう終わりです。もう少しで快適な気候になると思います。

皆様如何お過ごしでしょうか。

本使は1年半少しセネガルに勤務していますが、昨年と比較して、ダカールの暮らしの中で2つの変化を感じます。

1つは洪水です。昨年はスコールの後は必ず街中で大洪水になり大渋滞が起きたのですが、今年は雨も少なかったせいか大きな洪水や大渋滞が起きませんでした。本使の住むファン地区では昨年から水はけをよくするために道路の側溝の掘り返しが進められていたのですが、そのような対策が奏功したのかもしれない。

また、昨年は毎日のように通勤の往来時に湾岸通りが大渋滞になっていたのですが、今年は、渋滞はしますが昨年ほどの大渋滞にはなりません。その背景はよく分かりませんが、ダカールの中央を走ることになる高速バスの道路整備作業が進んで、昨年より通勤に使える幹線道路が増えているからなのかもしれません。

いずれにせよ昨年に比べてダカールの生活に改善が見られることは大変結構なことだと思います。

10月20日に、ダカール大学で「JICAチェア」というイベントがありました。「JICAチェア」というのは明治以来の日本の発展の経験を今日発展しつつある途上国に伝えていくことを目的にしています。今回のダカール大学でのイベントにはアフリカ経済の専門家である京都大学の高橋先生が来られて、日本の近代化において革新的起業家達が果たした役割について講演をされました。豊田佐吉や松下幸之助といった若き天才技術者達が起業し、産業を興し、日本の経済発展を支えた歴史について丁寧に話をして頂きました。本使は常より、「大した天然資源を持たず人材によって国を興した日本の経験は資源を持たない多くのアフリカ諸国の発展のモデルになる」と喧伝しているので、高橋先生の講演は我が意を得た感じを持ちました。

日本の経済協力の柱の一つは青年協力隊や専門家に代表されるように日本の技術や経験を伝えていくことにあります。また、本使が今進めているセネガルからの日本への留学生や技能実習生の派遣拡充も、セネガルの若者に日本で技術を習得させ経験を積ませることを通じて、ゆくゆくはセネガルの経済発展に貢献してもらいたいとの思いがあります。

私達の協力によりセネガルの発展に貢献する有意な人材が一人でも多く育てて欲しいと願っています。

日本人の有志の方々が、来年6月に、過去に悲しい歴史のある世界遺産のゴレ島から全世界の子供達に向けて平和と幸せの祈りを発信するための音楽祭を開催する計画を進めています。

す。本日（11月3日）、そのゴレ島の音楽祭につながるイベントとして広島において平和の祈りの音楽祭が開催されました。悲しい歴史を持つ広島から未来を担う子供達によって平和の大切さを世界に向けて発信する良い機会となったことでしょう。

この広島からの子供達のメッセージは来年のゴレ島音楽祭に引き継がいくことになります。